

温泉地の賑わいを取り
戻そう！

執筆担当者
孫田 猛

昼下がりに温泉地を
歩くことが多い。この
時間帯は観光客が少な
く、その温泉地の状況
を正直に反映している
ように思える。かつて
は歓楽型温泉地として
名をはせたところが、
いまや風前のともしび
と化したところも数多
い。

特に空き店舗や廃墟
の施設がそのまま放置
されている光景は、景
観上きわめて良くない。
また、街全体が疲弊
した印象を受ける温泉
地に出くわすこともあ
る。いずれも入り込み
客数の減少傾向に歯止
めがかからない地域の
共通した現象である。
もはや旅館に宿泊し
た客を一步も外へ出す
なといった時代は過ぎ、
旅館そのものに客が来

なくなってしまうと
いう、冗談では済まさ
れない段階のところも
多いはずだ。
高度経済成長時代の
温泉街の姿がベストと
は言わないが、少なく
とも「浴衣姿でそぞろ
歩き」という温泉街の
風情は温泉文化の重要
なひとつの姿である。
かつての湯治型か歓
楽型かといった単純な
くくりではなく、これ
からの温泉地の姿は、
多種多様であっていい。
むしろその地域の独自
性や特色を前面に出し
た街づくりが望まれる。
温泉地に元気を取り

戻すためには、個々の
旅館の努力では限界が
ある。地域全体がそれ
ぞれの旅館の客のわけ
隔てなく、みんなが歡
迎する姿勢を示すこと
から始めなければなら
ない。
それは大それたこと
ではなく、お金のほか
ることでもない。今わ
ざわざこの温泉地に来
ていただいている「今
日のお客様」に対して
始めることである。さ

て何ができるかである
が、一過性のイベント
とは別に、まごころの
おもてなし、感謝の気
持ちをあらわす手段と
は？少しでもいいから
喜んでもらうことは何
か？こんなテーマで検
討を始め、内容は代わ
つてもいいから毎日続
けることが肝心だ。
そこにはお客を捌く
（さばく）という気持
ちが見え隠れしては話
にならない。そのよう
な対応を人は敏感に察
知し、もう一度行きた
いという気持ちとは程
遠い感情にしてしまう
のである。

今一度原点に立ち返
り、温泉情緒を取り戻
すために、顧客の目
線・感情にたった温泉
地づくりに取り組んで
みていただきたい。新
しい時代の温泉文化は
それぞれの温泉地の特
徴そのものだ。がんば
れ温泉地の人たち。
http://www.
ikmag.jp
email:magg
otai@ikmag.jp